加茂里山百軒 旗揚げ

加茂里山通信
平成３０年 秋号
発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
編集長 征矢貫造

加茂商工会

加茂地区には、昭和３０年代から４０年代にかけて、多くの商店や事業所がありました。当時は商工会議所ではなく加茂商工会が存在し、そこに多くの店舗が参加していました。私の住んでいた養老地区では県道８１号線（天津小湊線）沿いの３００Ｍ位の間に、飲食、雑貨、荒物、文具、精米、自転車、建具、美容、ガス、呉服、鮮魚、物菜、新聞、理容、美容、割烹旅館などの店舗と、農協、郵便局などがありました。おそらくその頃が最盛期で、一家族の人数も多く、子供達もたくさんいて駅前や神社の森や川などで遊び回っていました。当時は治安も良く、野良仕事で家を空けていても、窓も戸も開けっ放しで、鍵など閉める家などは無かったと思います。

今はどうかと言えば、営業している店はコンビニ１軒となり、人も減り子供達の遊ぶ姿など見かけることはなくなりました。加茂地区の人口の減少は著しく、加茂学園に通う各学年の生徒数によく表れています。車社会の到来で移動の距離が伸び範囲が広がって、少し遠くまで買い物が出来るようになり店舗減少に拍車をかけました。

養老に限らず他の地域でも同じく店舗数はどんどん減り、牛久の商店街もシャッターの降りた店の方が多くなりました。

加茂里山百軒へ

加茂地区で今現在営業している店舗はそうした過酷な状況の中を創意と工夫でたくましく生き抜き、現在に至っています。又、新しくこの地域で開業したところもあります。市原商工会議所加茂支部に所属するそれらの店舗を、新たに「加茂里山百軒」として、加茂地区の内外の人に認知してもらい活用してもらえるようマップを作成しました。

今回は飲食、商店、レジャー等の店舗を紹介するマップとなりました。この後にそれ以外の技術系の職種の店舗紹介のマップを作成します。まずは位置がわかり、連絡先がわかるものにしました。いずれ経営者の顔がわかり、営業内容のわかるものにしていきます。詳細な店舗情報を紹介し、初めてこの地に来られた方にも利用していただけるものにしていきます。

又今回、併せて「加茂里山百軒」ののぼり を掲げ、加茂地区全体での文字通り旗揚げプロジェクトとしました。マップは進化していきます。これ以降も情報をどんどん入れ、分かりやすく情報量の多いものにしていく予定です。そのためにも皆様のご意見をお聞かせ願いたいと思います。

9月末に新聞折り込みで加茂地区には毎戸配布しましたが、ほしい方がいらっしゃいましたら、養老渓谷駅、観光協会案内所 月崎駅、里見駅、高滝駅、クオードの森でマップに登場する各店舗にありますのでお取り下さい。

時代は平成から次の時代へと変わります。時代を生き抜き地元でがんばる各店舗をご利用いただきますようお願い申し上げます。

（市原商工会議所加茂支部長 征矢貫造）

チバニアンが天然記念物に

市原市が以前から天然記念物として国の指定を申請してきた、田淵の地磁気逆転地層が10月15日（月）の官報告示に掲載され、正式に決定しました。77万年前の地質年代の境界として、また、地磁気逆転現象を保存するものとして、学術的な価値が高いとされたことから指定されたものです。

御嶽山の噴火による火山灰の堆積で、年代の確定もでき、見た目にも境界が確認できる地層は 学術研究だけでなく、多くの見学者が訪れる観光名所になっています。

市では約50台分の駐車場も整備し、これから周辺整備にも着手したい考えを持っています。

（大曽根T里山通信員）

第3分団 県大会4位

加茂師団操法大会、市原市大会、千葉支部大会を勝ち抜き、県大会に臨んだ加茂師団第3分団は本当に僅差で4位になりました。1位との差はわずか1点。3月半ばからのたゆまぬ訓練の日々の成果を発揮し、結果を残しました。優勝こそ逃しましたが同等の力量を見せたのですから大健闘です。

これからも誇りをもって地域の消防活動に励まれることと思います。

心から健闘をたたえたいと思います。

（征矢里山通信員）

商工会議所加茂支部視察研修旅行 東海道をゆく

市原商工会議所加茂支部主催の平成30年度の視察研修旅行は、東海道を通って愛知県へ行きました。途中静岡県掛川市にある「加茂荘花鳥園」で、まさに鳥と花の園内で昼食をとりました。

エンジェルトランペットが巨木のようになり無数の花を咲かせていました。食後に見学した大地主の庄屋屋敷は造りの見事さに圧倒されました。愛知県のトヨタ博物館では普段見ることができない年代物のクラシックカーを間近に見ることができ、芸術品のような車の美しさに魅せられました。

次の日に、名古屋城を見学しました。天守閣は木造復元を目指して現在閉鎖されていますが、本丸御殿は復元され今年全体公開となりました。その見学最中に耳にした日本のヒノキはどの国の材よりも美しいという言葉通り、きめの細かい無節のヒノキが往時を彷彿させて和の美の極みを見せていました。

車中は笑いにあふれ、にぎやかで楽しい旅行となりました。

（征矢里山通信員）

加茂学園は今

夏休み学習会

夏休み中8日間、図書室を会場に学習会を行いました。算数の鈴木眞枝先生と「もやい」という市原市の退職された先生方のお手伝いのもと、おもに小学生の算数の基礎学力を向上させるためにがんばりました。参加した人数は、8日間でのべ２５０人と、連日図書室が満員になるほどでした。子供たちはとても集中して取り組み、始める前に比べて計算力の基礎が定着してきました。また、初めて出会った先生方との会話もとても楽しかったようです。

子供たちからは、「けいさんがはやくなりました。」「べんきょうがすきになりました。」「またやりたいです。」と、とても充実したことがわかる言葉が返ってきました。この意欲を継続させ、2学期以降も学習に力を入れていきたいと思います。

稲刈り体験

9月12日（水）に5年生が稲刈り体験を実施しました。

今回は、5月に自分たちの手で植えた稲を、鎌を使って収穫する体験でした。はじめに「あゆみ会」の島野さんに鎌の使い方を習いました。その後は、自分たちでどんどん収穫していきました。コンバインが田んぼに入ってきて、機械による「脱穀」も体験しました。

さらに、コンバイン乗車体験もあり、充実した1時間になりました。

乗車体験した子どもは、「レバーを前にすると前進、レバーを元にもどすと止まるしくみで、上手く止まる事が出来なかったがとても楽しかった。これからお米は残さないようにしたい。」「コンバインにのって稲かりをしたらとても気持ちが良かったです。きちょうな体験ありがとうございました。」「初めてコンバインに乗ってすごいと思ったことは、びみょうなそう作の調せいです。これからもお米を残さず食べていきたいです。」と、とても充実していたことがわかりました。

農業の大変さ、大切さを体験した有意義な学習になりました。

（生田里山通信員）

加茂学園に油絵が寄贈されました

7月11日（水）に加茂学園へ市原コスモスライオンズクラブの片岡秀明氏から2点の油絵が寄贈されました。

絵の大きさは、F50号（縦1m、横75cm）の大作です。1点は加茂学園近くにある里見橋より養老側上流の春の風景を描いたものです。川面、両岸の真竹、遠方の小湊線がよく調和しています。もう1点は、大久保の紅葉を描いたものです。いずれも加茂の山里が美しく表現されています。

氏は出光興産在職中、5年間千葉工場に勤務、市原市立青葉台小学校の設立の協力、初代PTA会長を務め、校歌の作詞もしています。退職後、国分寺台に住み、油絵、日本画、水彩画等に親しむかたわらライオンズクラブに参加し、慈善奉仕活動に精力的に参加しております。

この2作品は2013年8月、個展「市原36景」で発表したものです。片岡氏は絵が子供達の情操教育に役立つことを願って寄贈されました。

（河邊龍雄里山通信）

山田校長先生と片岡さん

次回は1月25日発行予定です。
情報提供、取材依頼はお近くの通信員へ。
メールでも受け付けます。
記事に関する ご意見、お問い合わせは左記へ。
市原商工会議所
0436（22）4305 担当 霜崎
Eメール shimozaki@i-cci.or.jp

編集後記

本当に今年は長雨の秋になりました。10月に入っても雨や曇り空が続き晴れ間があまりなく、唯一2日間晴れだった時が商工会議所の加茂支部の旅行でしたから恵まれました。

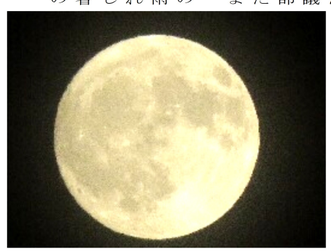
また中秋の名月の時も雨の合間の晴れ間でした。しかし、夏の暑さと秋のこの雨がキノコには実にいいらしく、マツタケの取れる地域では大当たりのマツタケをとるのに夢中になり転落などの事故が例年よりも多いといいます。加茂地区でもたくさんのきのこが採れるかもしれませんが、注意を。

石神の菜の花畑のところは曼殊沙華も沢山咲いて、その花を見に多くの人が訪れているようです。赤い花が強調される曼殊沙華で花の名所がまた一つ増えることになります。ところで菜の花の種まきを9月に行いましたが、その種をハトがみんな食べていると目撃した小湊の保線の人が言っていました。

あれだけ小さい種をよくついばむなと鳥の目の良さに感心しました。

秋は深まり紅葉の季節を迎えます。今年の紅葉の出来具合はどうでしょうか。台風の影響の塩害が心配されますが、夏の暑さと雨と急に冷えてきたことなど、条件はいいと思います。

（征矢里山通信員）



房総・養老渓谷の地酒お土産は
養老渓谷駅前
角屋商店
養老渓谷観光協会窓口
市原市朝生原１８１
TEL０４３６－９６－１１０８
FAX０４３６－９６－００５２

愛車のある幸せな暮らし
応援します！
安全・安心
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神２２７
TEL０４３６－９６－０４８２
FAX０４３６－９６－１２９３

皆様と共に歩む観光
ワカサギ釣りの季節到来
高滝湖観光企業組合
TEL 0436-98-1277

「大地の芸術祭」を見て

いちはらアートミックスと同じように、3年に1度の開催のアートトリエンナーレとして今年の夏に開催された新潟県越後妻有の「大地の芸術祭」視察の弾丸ツアーが、今回も牛久商店会と商工会議所南総支部の主催で行われました。私も加茂地区から参加させていただいて、今回で3回目となりました。毎回事前に足を運びみんなのために見所満載のコースを考えてくれる牛久の深山さんと、協力してコースを考えてくれる湖畔美術館の石井さんのお世話になりました。

今回は南総の将来を担う子供達にも視てもらおうと美術部の子供達8人を招待してのツアーでした。このツアーは朝5時発、夕方8時着予定の弾丸ツアーです。前回は台風の影響でフクアラインが通れず遠回りしましたが、今回は順調にいき9時頃には到着。

清津峡トンネル

車の混み具合で行けるか心配だった清津峡に最初に行くことができました。ここは日本3大峡谷のひとつで柱状節理と呼ばれる岩が連なり独特な景観を作っていて渓谷となっています。そこに沿うように全長750mのトンネルが掘られ、そのところどころに渓谷を望むことの出来る横穴が掘られています。それぞれのところに仕掛けが施され、異なった観点から奇岩の渓谷を見ることができます。

このトンネルの中で1回目のアートミックスの時に大活躍した香川から来ていた内海さんと遭遇。彼女とは1回目のアートミックス終了時に、他の芸術家や湖畔美術館のスタッフ、それに養老東朋会のメンバーで打ち上げのバーベキューをしたことがあり、また前回の2回目のアートミックスの時に月出工舎でバッタリ出会ったりして、偶然にしてはできすぎのようで、この清津峡トンネルがまるでタイムトンネルか何かのようでした。

里山からの発信

光の家

十日町の「ナカゴグリーンパーク」のジェームス・タレル氏の「光の家」も強い印象を残しました。山の上に立てられた一軒家の和室に寝転ぶと、屋根がスライドし天井が開いて四角く切り取られた空が出現します。それを縁取る天井も光の仕掛けが施され色を変えていきます。夜の星空の下であったならもっと効果的だったと思いました。また随所に光ファイバーが施され、風呂などはつかると幻想的な光に包まれる仕組みです。ここは予約で宿泊が可能ということでした。

毎回中庭にあたる場所が姿を変える越後妻有里山美術館「キナーレ」も「空の池」と題し巧みな視覚効果を ねらった仕掛けがありました。又「方丈記私記」と題した4畳半ほどの独創的な空間は多彩でおもしろいものでした。ほかにも「農舞台」が作品展示の場所に変わっていたり、松代では前回のアートミックスでも活躍した蜂見翼の太鼓集団 切腹ピストルズ」のパフォーマンスにも出会い楽しむことができました。

芸術祭は進化する

総じてスケールの大きさを感じました。川原を使ったり田んぼを使ったり、様々な自然空間の活用と必要とあれば家も建ててしまうなど、7回目を迎えた大地の芸術祭は世界最大級の芸術祭として、360もの芸術作品が市原市全域と同じ程度の広さの中で展開されています。その一端しか見ることは出来ませんでしたが、回を重ねるに従って新しいものを加え進化する、そういうものかなと感じました。

他の芸術祭でも感じたことですが、各地に散らばる芸術作品を見るために移動することによって、その地の自然も含めての芸術祭だと感じます。

これまで見た芸術祭の中では宮城県石巻市の「リボーン芸術祭」が強く印象に残っています。災害復興途中の光景と海と屋と山、それに島が織りなす圧倒的な景観はそこにある芸術作品とともに強く記憶に残りました。

後2年後に迎える東京オリンピックの年の「いちはらアートミックス」がどのように進化するのか楽しみです。

（従矢里山通信員）

地域おこし協力隊員リポート6

次の春のために

地域おこし協力隊の高橋です。9月22日、石神菜の花畑の種まきが終わりました。今年は彼岸前に土手の草を刈ることができたので、ちょうど彼岸花が咲きそろう中で種をまくことができました。石神は80名近くの参加がありました。種まき後、白鳥小学校体育館へ移動、各駅の地域団体やボランティアと合流し、里山カレーを頂きました。体を動かした後の里山カレーは相変わらず絶品です。

油の売り上げで購入できたトラクターは、まだまだ先輩方のようにうまく使いこなせません。くねくねと曲がった耕転跡や、猪のしわざと間違えるような荒々しい耕転跡は僕がやったところです。それと朝生原、石神あたりの公道を緊張しながらとろとろ走っているトラクターは僕です。クラクションでも鳴らして追い抜いちゃってください。慣れないトラクターのおかげで、やれることがだいぶ広がった2年目の今年は、朝生原の休耕田10反近くに種をまきました。収穫方法も効率化して収量を増やしていきたいと思っています。

空き家はありませんか

話は変わりますが、NPO法人加茂活性化ネットワークで加茂地区の空き家を調査しています。空き家を移住希望者に紹介するためです。今までは、加茂地区に移住したいと相談に来る人に対して、なかなか空き家の情報を与えることができませんでした。というのも、市の空き家バンクは全く機能しておらず、加茂地区の登録物件数は現在ゼロです。他市は空き家バンク登録数が多く、移住者に対する支援や補助が充実しているため、町会の半分が移住者というところもあります。過疎、高齢化が進んでいくこれからは地の人と移住者が力を合わせて地域を維持発展させていかなくてはなりません。

今後はNPO法人加茂活性化ネットワークが移住希望者と空き家の間に入り、移住希望者の移住定住をサポートします。今月も合計5人の方に空き家を案内しました。空き家情報だけではなく周りの環境や町のことなども案内する必要があるかもしれません。空き家があっても片付いてないから貸せないという方が多くいるので、片付けや草刈りの代行などもNPOでする必要があるかもしれません。移住希望者が地域になじめるよう、又は地域が移住希望者を快く受け入れられるようサポートするのがNPOの役割です。今まで隣近所に負担をかけてきた空き家が、地域に貢献する空き家に。維持管理に手間をかけてきた空き家が、定期的な収入を生む空き家に。閉め切った暗い空き家が、光の入る明るい空き家に。

空き家は個人のものであると同時に地域のものでもあると思います。地域みんなで空き家問題に取り組んでいければと思います。

もし空き家があるという方や、近所に空き家があるという情報をお持ちの方は連絡下さい。床が抜けても雨漏りしていても片付いてなくても大丈夫です。ご連絡ください！

（TEL 080 8180 0222）

（高橋里山通信員）

こっもど紀行

南市原里山連合 市原市ふるさと応援団に認定される

市原市南部地域で里山の保全活動などを行っている「南市原里山連合」が市原市のふるさと応援団に認定されました。

里山連合は　石神の菜の花で注目される「石神菜の花会」や国本の「こっもど二心会」月崎の「あゆみ会」里見駅を中心に活動する「喜動房倶楽部」など、各地域で、それぞれふるさとの景観を守り、地域の活性化を図るなどの活動を続けてきた20団体が連携した連合体。

飯給の松本康彦さんを会長に、アート×ミックスへの協力や、小湊鉄道の駅のイルミネーションの飾りつけなど、市の行事にも積極的に協力してきました。こうしたことが評価され、認定につながったものです。

小出市長　金子さん　兼岡さん

認定書の贈呈は9月22日に行われた菜の花の種まきイベントの昼食会場である旧白鳥小学校で行われました。このイベントも市原市と里山連合が中心となって協力しながら行ってきたもので、この日もボランティアも含めて1000人近くの方たちが小湊鉄道沿線への種まきを行いました。

「ふるさと応援団」は市原市の魅力を広く発信するため、市行政の協力者の方へ贈呈させていただいている称号です。市原市では団体として2例目となる認定となりました。

認定により、団体の活動状況を市のホームページで紹介したり、広報で取り上げることも可能になり、里山の魅力発信とともに、活動への協力者の増加などが期待されます。

（大曽根R里山通信員）

里山の攻防　秋の陣

庭先のたわわに実った柿をサルの一団がやってきてかじっては捨てている。畑の作物を荒らす。その姿が見えるとロケット花火を打ち上げる。3発くらい鳴らすといなくなるが、また他の地域に遠征した後で舞い戻ってくる。イノシシは里山を根城にしてどんどん増えている。最近畑でさつま芋を作る人が減っている。それはせっかく作ってもみんなイノシシに横取りされてしまうため。電気柵は有効らしいが、休耕田や農道は掘り起こしてこぼこになっている。このため、草刈をするのも大変になってくる。

最近私が被害にあった厄介なもの「山ひる」。なんとお彼岸の墓参りに行って、くるぶしの少し上にくっつかれた。草むらに入るときには必ず長靴をはくのに、墓参りには運動靴だったことを後悔。最近ではヒルよけスプレーがあるらしい。

「里山はのどかでいいところね」などと抜かしている人は言いますが、そうですね。いろいろな野生動物に出会えます。いろいろな花も咲いています。キンモクセイが香ってくると山にきのこの季節がやってきます。栗やくるみも落ちています。夜中に獣の声がします。是非遊びに来てください。

猿に取られないうちに拾った栗で渋皮煮を作ります。落ちてすぐの栗は虫が軟らかくてむきやすいです。渋皮を傷つけないように皮をむき、鍋に栗とひたひたの水、重曹を大さじ1杯入れて火にかける。沸騰したら、中火にして15分煮る。火からおろし、水を流しながら、栗の筋を取りきれいにする。もう一度火にかけ、沸騰したら、火を止めて水を替える。もう一度同じことを繰り返す。水がきれいになったら、栗、少なめの水、砂糖（栗の6割程度）を入れて火にかける。砂糖の加減はお好みで）仕上げにお醤油を大さじ1入れる。栗が顔を出さないように、キッチンペーパーで落し蓋をする。一晩寝かせて次の日にもう一度火を入れる。お好みの味になったら、煮沸消毒をしたビンに詰める。これで保存が効きます。今年は渋皮煮を入れた『栗大福』を作りました。

（大曽根R里山通信員）

吉沢に鳳来寺観音堂あり

市原市吉沢に国指定重要文化財「鳳来寺観音堂」がある。季節毎に境内の雰囲気が変わる。桜、銀杏、雪によっていろいろな顔を見せてくれる。桜、銀杏は毎年の恒例としてみる事が出来るが、雪に関しては数年前の大雪の時が絶景だった。

そして、12年（子支）に二回の奥養老西国三十三札所の御開帳の時に、本堂が開けられ、境内の中央に御柱が立てられ、一般参拝者と観世音菩薩の指とを繋ぐ紐が渡される。

本堂の前面の軒下には、一枚の額が掲げられている。西国九番ノ窩（写し）

「まいるより　たのみをかくる　葛井寺　花乃うてな

に　むらさきの雲」

鳳来寺観音堂は、奥養老西国三十三札所の5番目の札所となっており、多くの参拝者が足を運んでいた。近年、屋根の一部葺き替えも終了し、その歴史も少し変わりつつある。地元に方に聞くと「屋根がまっつぐじゃねった」と言われた。縁が少し曲がっていたようだった。四季折々で見ている方々にはかわいと思った。お賽銭をあげた時ふと上を向くと、鈴ではなく銅鑼のような物があった。音も鈍い音がするだけ。お賽銭と共々に御覧ください。

（矢代里山通信員）

昭和村文化祭

日時　平成30年11月4日（日）
9：15～14：30
会場　市原市万田野732-6
社会福祉法人　昭和村
内容　五月流千登勢会舞踊
加茂学園吹奏楽部発表
加茂区内保育園・加茂学園児童生徒の作品展示
フリーマーケット・バザー等
山火太鼓演奏
前田麻里絵画展
VONDS市原も来園します

問い合わせ
軽費老人ホーム　渓泉荘
96-1112

人と環境が一体となって大切な未来へ
自然環境と人間との調和を目指して
杉田建材株式会社
本　社　市原市万田野 26　TEL 0436(96)1311
市原支店　市原市惣社1－1－22　TEL 0436(24)0511
南総支店　市原市牛久450－1　TEL 0436(50)0111
URL　http://www.sugita-group.com/